

山形大学生のための 海外渡航ハンドブック



目次

P 3	1. 渡航前の準備	(1) 渡航先の情報収集 (2) 山形大学への届出等 (3) パスポート・ビザ (4) 海外旅行傷害保険 (5) 外務省海外旅行登録 (6) 予防接種／感染対策／病気対策 (7) クレジットカード
P 7	2. 滞在中の注意事項	(1) 連絡先の確保と確認 (2) 安全対策 (3) 自己管理・メンタルヘルス (4) トラブルに巻き込まれたら
P 14	緊急時の連絡先	
P 15	海外渡航に役立つリンク集	



1. 渡航前の準備

(1) 渡航先の情報収集

海外においては「**自分の身は自分で守る**」が原則であり鉄則となります。リスク回避や万が一トラブルが発生した場合の適切な対応のため、**派遣先の治安状況や犯罪傾向を把握し、適切な対応方法などについても情報収集をしておいてください**。各国には、日本と異なる歴史、文化、習慣、政治体制、経済状況があるということをよく理解し、現地の人とのコミュニケーションを円滑にし、無用なトラブルを避けるためにも、各国の事情についても調べておいてください。

* 外務省海外安全ホームページ <http://www.anzen.mofa.go.jp>

国・地域別に犯罪の発生状況や防犯対策やテロ・誘拐情勢などの情報

(2) 山形大学への届出等

山形大学が実施するプログラムの参加者はもちろん、私事渡航でも「**海外渡航届**」を担当係に提出してください。これは、海外渡航中に何らかの危機が発生した場合に、山形大学が関係省庁やご家族と迅速に連絡が取れるようにするためです。

現地到着後及び日本帰国後は、速やかに学務・学生支援担当係へ到着・帰国の報告をしてください。可能であれば、**定期的に担当係やご家族に状況を報告し、万が一の時にはすぐに連絡がつく状態を作っておきましょう**。

なお、現地の情勢や状況の変化によって、外務省からレベル2の危険情報が発出された場合には、本学危機管理ガイドラインに基づき、基本的には渡航の延期又は中止とします。また、渡航中の者にはいつでも帰国ができる準備をするように指示します。

(3) パスポート・ビザ

パスポートの**残存有効期間が、渡航先の条件を満たしているか確認**してください。**渡航先のビザ条件を調べ、必要であればビザを取得**することになります。

また、パスポートの紛失や盗難に備え、顔写真・ビザのページを数枚コピーしておくとお安心です。なお、国によって、身分証明書の常時携帯が義務付けられていることもあります。

また、留学ビザ等を取得している場合、国によっては入国に際し、受入許可証や滞在先の提示を求めますので、入国時には必要な書類を準備するようにしましょう。



(4)海外旅行傷害保険

渡航期間に関わらず、必ず加入してください。慣れない環境では思わぬ病気にかかりやすいだけでなく、海外では日本人をターゲットとしたスリやひったくりが頻発しています。空港で預けた荷物が行方不明になる、飛行機が遅延するなどのトラブルも報告されているため、**必ず出国から帰国までの期間で加入**してください。なお、協定校への短期派遣留学の場合は、受入大学が求める補償内容を網羅した保険に加入する必要がありますので、確認しましょう。

クレジットカード付帯の海外旅行傷害保険は、「死亡・後遺障害」の補償額は高いですが、海外派遣で利用頻度の高い「障害・疾病」の保険金額が低い、トラブルが発生した時に補償されない、あるいは補償が十分でない場合が多いので、別途加入をお勧めします。

「海外旅行傷害保険」の他に、留学生専用の特約がついた「海外留学保険」もあります。渡航期間や目的に応じて、最適な保険を選ぶようにしてください。

なお、**保険に加入した際の保証書のコピーは、日本国内の家族等へも渡しておいてください。原本は、渡航中は忘れずに携帯してください。**

【海外での事故・事件の事例】

<p>【ケガ】 発生地：インドネシア 送迎用ワゴン車が横転し、頭部、四肢に多発性外傷、肋骨・腰椎の骨折などの重傷を負う。現地病院に收容されるが、医療機器が不十分であったため、プライベートジェット機にて、シンガポールへ移送。 11日間の入院後、家族を呼び帰国。</p>	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>現地治療費</td> <td>699,146 円</td> </tr> <tr> <td>移送費用</td> <td>4,849,040 円</td> </tr> <tr> <td>帰国費用</td> <td>643,100 円</td> </tr> <tr> <td>支払金額合計</td> <td>6,191,286 円</td> </tr> </tbody> </table>	現地治療費	699,146 円	移送費用	4,849,040 円	帰国費用	643,100 円	支払金額合計	6,191,286 円
現地治療費	699,146 円								
移送費用	4,849,040 円								
帰国費用	643,100 円								
支払金額合計	6,191,286 円								
<p>【病気】 発生地：中国 急性肝炎にかかり、24日間入院。</p>	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>現地治療費</td> <td>1,203,292 円</td> </tr> <tr> <td>支払金額合計</td> <td>1,203,292 円</td> </tr> </tbody> </table>	現地治療費	1,203,292 円	支払金額合計	1,203,292 円				
現地治療費	1,203,292 円								
支払金額合計	1,203,292 円								
<p>【盗難】 発生地：タイ 空港で荷物をカートに乗せ、携帯電話で通話中に、デジカメや財布の入った荷物を盗まれた。</p>	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>支払金額合計</td> <td>148,302 円</td> </tr> </tbody> </table>	支払金額合計	148,302 円						
支払金額合計	148,302 円								
<p>【賠償】 発生地：スイス ホテルに宿泊中、バスタブのお湯をあふれさせ、部屋を水浸しにした。</p>	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>支払金額合計</td> <td>524,163 円</td> </tr> </tbody> </table>	支払金額合計	524,163 円						
支払金額合計	524,163 円								

参照：地球の歩き方＞海外旅行保険 <http://hoken.arukikata.com>

(5)外務省海外旅行登録(在留届・たびレジ)

外務省海外安全ホームページにおいて、旅行日程・滞在先・連絡先などを登録すると、海外渡航に役立つ在外公館の連絡先や渡航先国の渡航情報などが提供されます。登録したメールアドレスに直接、在外公館から発信される緊急一斉通報や最新の渡航情報が配信されます。滞在先の国で緊急事態が発生した時には、登録した電話番号などに在外公館などからの緊急連絡を受け取ることが出来ます。**必ず登録してください**。特に**3か月以上海外に滞在する場合、在留届の提出は旅券法で定められた義務**になりますので、必ず登録しましょう。

【緊急一斉メール例（抜粋）】

安否確認(要返信)
在マルセイユ総領事館管轄地域 アルプマリタイム県、ヴァール県にお住まいの皆様へ 【要返信】 ただ今マルセイユ総領事館では、7月14日22時30分から45分頃、ニース市内の海岸通りプロムナードデザングレで発生したトラック突入事件に関し、邦人の方々の安否の確認をしております。 このメールを受け取られましたら、大変恐れ入りますが、「被害なし」「問題なし」と、このメール(メールアドレス cgm8@my.mofa.go.jp)に対して至急御返信をお願いします。お名前と読み仮名を明記して下さい。 また、お知り合いの邦人が被害に合った事をご存知の方は、領事緊急電話番号 06-22-85-86-31、もしくは、総領事館代表番号:04.91.16.81.81(夜間、土日も緊急連絡センターに繋がります)までご連絡いただけますようお願いいたします。 在マルセイユ総領事館
バングラディッシュにおけるテロを受けた注意喚起
平成28年7月3日 在スラバヤ日本国総領事館 (2)テロの脅威 2014年9月、ISILは、欧米を含む世界の(スンニ派)イスラム教徒に対して、対ISIL連合諸国の国民を攻撃するよう扇動する声明を发出しており、その後、ISILによるとみられるテロ事件が多数発生しています。また、ISILは、昨年初め、シリアにおいて日本人2人を殺害したとみられる動画を发出したほか、同年9月には、その機関誌において、ボスニア、マレーシア及びインドネシアの日本の外交使節(大使館等)を攻撃対象の候補として言及しています。 (3)テロ等に関する安全対策 ア ～特に、テロの標的となりやすい場所(デパートや市場等不特定多数が集まる場所、公共交通機関、ホテルなどの宿泊施設、ビーチ等のリゾート施設、観光施設、政府・軍・警察関係施設、欧米関連施設等)を訪れる際には、周囲の状況に注意を払い、不審な人物や状況を察知したら速やかにその場を離れる等、安全確保に十分注意を払ってください。 イ また、海外渡航前には万一来に備え、家族や友人、職場等に日程や渡航先での連絡先を伝えておくようにしてください。海外渡航や在留の際に、緊急事態が発生した場合、外務省からは随時情報を提供いたします。 ウ 実際に、テロ・爆発事件に遭遇した場合に被害を最小限に抑えるため、例えば次の諸点を心がけることをお勧めします。 <予防措置> ○ 退避ルートを確認する。 ○ 隠れられる場所を確認する。 ○ 常に周囲の状況に注意を払い、不審者や不審物を見かけたら速やかにその場を離れる。 <対処法> ○ その場に伏せるなど直ちに低い姿勢をとる。 ○ 頑丈なものの陰に隠れる。 ○ 周囲を確認し、可能であれば、銃撃音等から離れるよう、速やかに、低い姿勢を保ちつつ安全なところに退避する。 (海外旅行のテロ・誘拐対策パンフレット(http://www.anzen.mofa.go.jp/pamph/pamph.html)も併せて参照ください。)

* 外務省海外安全ホームページ > 海外渡航者登録サイト

3か月以上の滞在「在留届」
3か月未満の滞在「たびレジ」



(6) 予防接種/感染対策/病気対策

渡航先で求められている予防接種の有無や内容・流行している病気や感染症の状況を確認してください。その上で、必要な予防接種を受け、必要な感染症対策グッズを準備してください。特に、欧米圏では学生寮に住むにあたり、義務付けられている予防接種があります。既に接種している場合はそれを示す英文証明が必要です。

新興国では上下水道の整備の進んでいない国も多く、**水や氷、生野菜や魚介類の摂取によりA型肝炎に感染するリスクがあります**。A型肝炎のワクチンは2～4週間の間隔で2回接種するため、渡航日程に合わせて余裕をもって計画してください。

主にアフリカ及び南米の熱帯地域は、黄熱に感染する危険の高い国とされています。また、他国を経由して現地に入国する際、その経由国にて黄熱の予防接種証明書（イエローカード）の提示を求められる場合がありますので、渡航経路が決定後、経由国についても調べておいてください。

なお、**持病がある場合は、渡航前に主治医に相談し、必要な処方を受けてください**。薬剤は、入国審査の際に問題になる場合もあるので、**容器は詰め替えず、元のパッケージのまま持参してください**。主治医による英文での証明書や診断書があると安心です。

*厚生労働省検疫所ホームページ <http://www.forth.go.jp>

国・地域別における感染症などの情報や新着の流行状況
様々な感染症や予防接種や感染対策方法など

*外務省海外安全ホームページ <http://www.anzen.mofa.go.jp>

危険度の高い感染症に関し、渡航・滞在にあたって特に注意を必要とされる場合に「感染症危険情報」が発出される。その他、各国の医療事情など。

(7) クレジットカード

海外で主に利用できるクレジットカードは、VISA CARD や MASTER CARD です。

クレジットカードを持参する場合は、**盗難や紛失に備えカード発行会社のヘルプデスクの電話番号を控えてお**

いてください。万が一盗難等に遭い、利用を停止する際は、**カード番号と有効期限も必要**となります。

また、海外ではスキミングなどの犯罪が増えているので、信頼できる場所でのみ使用するようにならねばなりません。



2. 滞在中の注意事項

(1) 連絡先の確保と確認

渡航先に到着したら、ネット環境を確認し、まずは家族と担当係へ到着の報告をしてください。滞在中は、毎日メールをチェックしてください。また、3か月以上の滞在となる場合は、在留届を忘れずに提出しましょう。

海外の警察・消防・救急は、日本の110番のように国内全土で共通の番号がある場合と、地域ごとに番号が異なる場合がありますので、緊急時に備え、滞在先の最寄りの番号を控えておいてください。緊急の際にすぐ対応できるよう、電話の掛け方についても事前に確認しておきましょう。

(2) 安全対策

「自分の身は自分で守る」ことが大前提です。日本とは違う治安状況であることを常に意識してください。

現地の治安状況や犯罪傾向について、滞在中も情報収集を怠らないようにしてください。特に、外務省や現地の日本大使館が提供する危険情報は必ず確認してください。

現地の情勢を十分に認識し、誘拐、脅迫、テロ等が想定されるような場所には絶対に近づかないでください。

様々な犯罪のターゲットにならないためには、目立たないことが大事です。外出する際は、服装や装飾品、携行品に配慮し、親しく話しかけてくる異性には注意するなど、危険な状況を自ら作らないようにしてください

万が一、事件や事故に巻き込まれた場合は、最寄りの警察署と渡航先の在外日本国大使館へ連絡してください。

《公共交通機関を利用する際の注意》

駅や停留所は犯罪現場となりやすいので注意が必要です。また、混雑している乗り物ではスリが多発するので、なるべく乗車を避けるようにしてください。荷物はなるべく最小限に抑え、必ず自分の目の届くところに置くようにしましょう。

タクシーに乗車する際は、信号待ち時の強盗防止のため、荷物は足元に置くなど、外から目につかないようにする必要があります。また、タクシー乗車後、料金上乗せの他、暴行を受けたり誘拐されたりという事件も発生しているので、慣れない土地ではなるべく現地の人と共に乗車してください。



《貴重品・現金の管理についての注意》

海外では、「日本人＝多額の現金や貴重品を持っている」と先入観を持たれていることを自覚してください。街中でスマートフォンやデジカメなどを持ち歩いているとひったくり等の被害に遭う例が多く報告されているので、写真を撮ったら**すぐにしまうという習慣**をつけてください。外出する際は、必要最小限の現金だけを持つようにし、大きな財布などは決して持ち歩かないようにしてください。万が一、強盗・窃盗等の被害に巻き込まれた場合は、生命の安全を第一に、犯人の顔を確認したりせず、抵抗しないで要求されたものは全て渡すことが大事です。また、長期滞在の場合、ルームメイト等との不要なトラブルを避けるため、現金は部屋に保管せず、その都度銀行から下ろした方がよいでしょう。

《麻薬等についての注意》

海外では、麻薬犯罪に巻き込まれる確率が、日本より格段に上がります。また、海外における薬物乱用には、日本より重い刑罰（死刑）が科されることを認識し、麻薬の使用や所持などを決してしないでください。

渡航先で知り合った人に、日本にいる家族や知人に荷物を届けるよう頼まれ、引き受けたところ、空港でその荷物が薬物であったことが発覚し、その場で逮捕されるという事件が多く報告されています。**知り合いといえども安易に荷物を預かったりせず、自分で詰めた荷物以外は運ばないようにしましょう。**

《その他のトラブルについての注意》

あらかじめ渡航先の持込・持出の禁制品や制限品目の最新の情報を入手し、税関上の手続きを正しく行うようにしてください。

多くの国では、**軍用施設や大統領施設の撮影は禁止**としており、**宗教施設なども撮影を制限**しているため、むやみにカメラを向けてはいけません。

警官を装いパスポートや所持品検査をするなどして貴重品を盗んだり、示談金を求めたりする犯罪が報告されているので、警察官と言われた場合でも「身分証明書の提示を求める」「警察署にて話をする」「日本大使館への連絡を求める」といった態度を示すようにしてください。

特にアジア圏で氾濫している**偽ブランド品やコピー商品**などの知的財産権を侵害する物品の日本国内へ持込みは、関税法違反となり懲役や罰金等の厳しい刑が科せられるため、決して購入しないようにしましょう。



《テロ等についての注意》

近年、様々な地域でイスラム過激派組織によるテロがみられるほか、これらの主張に影響を受けた者によるローンウルフ型のテロが発生しており、日本人・日本権益が標的となって様々な事件の被害に遭う恐れもあります。このような情勢を十分認識し、**滞在中も最新かつ正確な情報を入手し、状況に応じ適切な安全対策を講じるよう心掛けてください。**テロや銃撃・爆発事件は予測が難しいものの、傾向を知り、行動の仕方を考慮することで、被害を最小限に抑えることができます。

①テロの特徴：爆弾テロ

繁華街、市場、宗教施設、大型ショッピングセンター、競技場、外国人が利用するホテルやレストラン等の多数の人が集まる場所や駅、空港、バスターミナルといった人通りの多い場所に仕掛けられることが多いです。用事を済ませたらすぐに立ち去りましょう。また、平日朝夕のラッシュ時、イベント等の開催時間帯、週末の夜などが狙われやすく、ナイトクラブや列車等の密閉空間も標的となりやすいです。爆風等によるガラスの飛散による被害も多いので注意が必要です。

②テロの特徴：銃撃テロ

建物内に侵入後、犯人が出入口付近で避難者を待ち伏せすることがあります。落ち着いて周りの様子を確認してから避難してください。

③テロ等に巻き込まれないための事前対策

- 危ないと思われる場所や時間帯での行動は避けてください。
- レストラン等では、オープンスペースや出入口付近・ガラス戸の付近を避け、上階や壁際・柱の近くに席をとるようにしてください。
- 宿泊先や外出先では、常に退避ルートを確認してください。
- 目立つ服装や目立つ行動は避けてください。
- イヤホンで音楽を聴くなど外部の音を遮断するような行為はやめましょう。
- 常に避難しやすい服装（スニーカーや長ズボンなど）を心がけてください。
- 大きな荷物、不自然な厚着、不審人物を見かけたら、直ちにその場から離れましょう。

④テロ等に遭遇した際の対処法

- 爆発音や銃声が聞こえたら直ちに伏せてください。
- できるだけ速やかに現場から離れ、近寄らないようにしてください。
- 避難する時間がない、または襲撃対象となりうる場合は、頑丈な建物などの陰に隠れてください。
- 避難する際は、ハンカチ等で口と鼻を覆うようにしてください。
- 不用意な音を立てて居場所を察知されないように携帯電話の電源は切ってください。

《自動車等の運転》

海外では交通法規や習慣、道路状況などが異なり、交通事故や違反を引き起こしやすくなるため、現地での自動車及びオートバイの運転は推奨しません。

《飲酒・喫煙の注意》

渡航先の国において、飲酒や喫煙可能な年齢は異なりますが、本学学生の**未成年者の飲酒及び喫煙は、いかなる理由においても禁止**とします。

イスラム圏の一部では、大学構内など飲酒が全面的に禁止されている場所・地域があります。必ず事前に確認してください。

喫煙についても、喫煙可能な場所を確認して、周囲の迷惑にならないようにしましょう。



《宗教と生活習慣の注意》

宗教に対する考え方は国によって大きく異なります。日本に比べ、宗教を生活の中に色濃く反映させている国もあり、**渡航先の宗教などを知り、配慮することが重要**です。

風俗や習慣のみならず、社会全般にわたり宗教が意味を持っている地域も多くあるため、日本人の価値観で発した何気ない一言が、現地の人々が信仰する宗教を侮辱していると捉えられてしまう場合もあるので注意してください。また、宗教施設を訪れる際は、肌を露出した服装は避けるようにしましょう。

現地で信仰されている宗教や風俗・習慣に尊厳の念を持ち、慎重な行動を心掛けてください。

《衛生管理》

新興国では**上下水道の整備が進んでいないところが多く、水質が悪いため飲用してはいけません**。また、先進国であっても水質が合わないことも多いので、飲用は避けることを推奨します。屋台などでの食事は、不完全な調理や汲み置きの水で洗った包丁などで調理されることなどが原因となり、A型肝炎や赤痢などを発症する可能性が高いので注意が必要です。また、飼い犬などの狂犬病ワクチン接種率が低い国も多くあります。狂犬病は一旦発症すれば効果的な治療法はなく、ほぼ100%の方が亡くなります。**むやみに動物には触れないようにしてください**。

地域によっては、蚊を媒体とするマラリアやデング熱などが流行しているため、**虫よけ対策も重要**です。万が一、発熱や下痢など普段と異なる症状が出た際は、速やかに現地スタッフ等に相談し、医師の診断を受けてください。

HIV ウイルス（エイズ）の感染を避けるために、むやみな性行為は行わないようにしましょう。

(3)自己管理・メンタルヘルス

海外ではカルチャーショックを受けることが一般的です。言葉が通じなかったり習慣が違うことが原因で、ストレスが溜まってしまうかもしれません。

《ホームステイ・寮》

密なコミュニケーションが成功のカギとなります。特に、次のことについて、事前にホストファミリー・ルームメイトと確認しておきましょう。

- ①生活パターン
- ②鍵，戸締り，門限
- ③食事とマナー
- ④バスルーム・キッチンの使い方，洗濯の仕方
- ⑤電話，インターネット，電化製品
- ⑥喫煙，飲酒
- ⑦宗教，習慣
- ⑧病気になったとき，緊急時の連絡先や集合場所



近年，ホストファミリーによるパワハラやセクハラの問題が多くなっています。このような問題の場合，周りに言いにくかったり，英語等で説明できない場合が多くあるので，一人で悩まず山形大学の担当窓口などに相談してください。

また，事前にホストファミリーや寮の変更など，どこに連絡・相談したらよいのかをしっかりと調べておきましょう。

《食文化》

日本では身近にあった食材を購入することも難しくなり，思うような食事を作ることができないかもしれません。一方で，現地の食事がおいしいからといって，食べ過ぎないように注意してください。一人分の量が日本よりも多いところもあるので，適度な量の食事を意識しましょう。

《授業》

日本では得意だった外国語も通用せず，留学先の授業の内容が解らずに悩むこともあるでしょう。**授業についていけないと感じたら，自分のチューター・担当教授・現地の留学仲間や先輩留学生等に相談しましょう。**単位を落とす，テストに不合格になってしまう前に，相談をして対処することが必要です。欧米圏では，エキストラワーク等でのテストの点を挽回できることもあります。

なお，テストの不正行為やレポート等の剽窃については，日本以上に厳しい処分になることもありますので，絶対にしないでください。

総じて次のような兆候が表れた場合には、アドバイザーやカウンセラーに早めに相談してください。

- ①口数が少なくなる
- ②気弱になる
- ③イライラする
- ④食欲がなくなる
- ⑤睡眠不足になる
- ⑥意欲が低下する
- ⑦集中力に欠ける
- ⑧閉じこもりがちになる
- ⑨頭痛や下痢が続く
- ⑩授業の欠席が多くなる



皆さんをサポートするネットワークとして、日本では家族・友人・山形大学の教職員・保健管理センター等が、渡航先ではルームメイト・ホストファミリー・カウンセラー・在外公館等があります。何か不安なことがあれば、周りに相談するようにしてください。

(4)トラブルに巻き込まれたら

《盗難や紛失》

盗難等の被害に遭った場合、まずは**現地警察に被害の事実を届け出て、被害届の受理書(ポリスレポート)を受け取ってください。**後日、パスポート等の再発給申請や海外旅行傷害保険の保険金請求の際に必要です。

なお、クレジットカードを盗まれた場合は、不正使用の恐れがあるため、**至急カード会社に連絡し、カードの無効手続きを行う必要があります。**

●盗難や紛失の際の連絡先

- パスポート…最寄りの日本大使館・総領事館
- 航空券…購入先の旅行会社・航空会社
- 各種カード類…カード発行会社
- 海外旅行保険に加入している保険会社

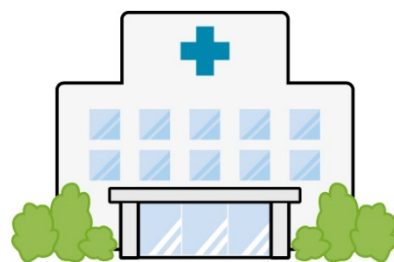
先進国では、盗難・紛失に限らず、大学内で起きた事件・事故は学内ポリスや学内警備が対応してくれる場合があります。未然の相談にもものってくれますので、活用しましょう。

《病気やケガ》

留学・研修先で体調不良の状態が長く続くとき、高熱や下痢、嘔吐の状態がひどいとき、ケガをしたときは、医療機関を利用しましょう。海外での病気、特に感染症には日本ではほとんど例がないものが多いので、素人判断は危険です。

海外旅行保険の種類によっては、相談ダイヤルに電話をかけると、診療費を直接保険会社から請求することで、本人の立て替え払いが不要になる現地の医療機関を紹介してもらえこともあります。自分が加入した保険の内容を事前にしっかりと確認しておきましょう。**病院に行くときは、必ずパスポートと海外旅行保険の契約のときにもらった証書(証券番号が書いてあるもの)を持っていきます。**

留学先機関に付属する保健センターが利用できる場合もあります。また、外務省ホームページ「[世界の医療事情](#)」から、海外主要都市の病院情報について得ることもできますので、あらかじめ調べておきましょう。



《交通事故》

交通事故に遭遇し、自分あるいは相手が重傷を負った場合には、まずは、周りの人に警察や救急車の手配を依頼しましょう。併せて、家族、留学先大学、山形大学、保険会社にも事故の発生を連絡してください。

保険会社に損害の請求を行う場合には、警察が発行するポリスレポートが必要となります。トラブルを避けるためにも**絶対に示談にはせず、警察に必ず連絡して立ち会ってもらいましょう。**

交通事故の責任が自分の側に大きいと感じる場合であっても、不用意に自分の非を認めることは、最終的に全責任を負うことに繋がりがねず、注意する必要があります。**外国では、「アイムソーリー」は、自分の非を認める言葉ですので、これを多用することは控えてください。**

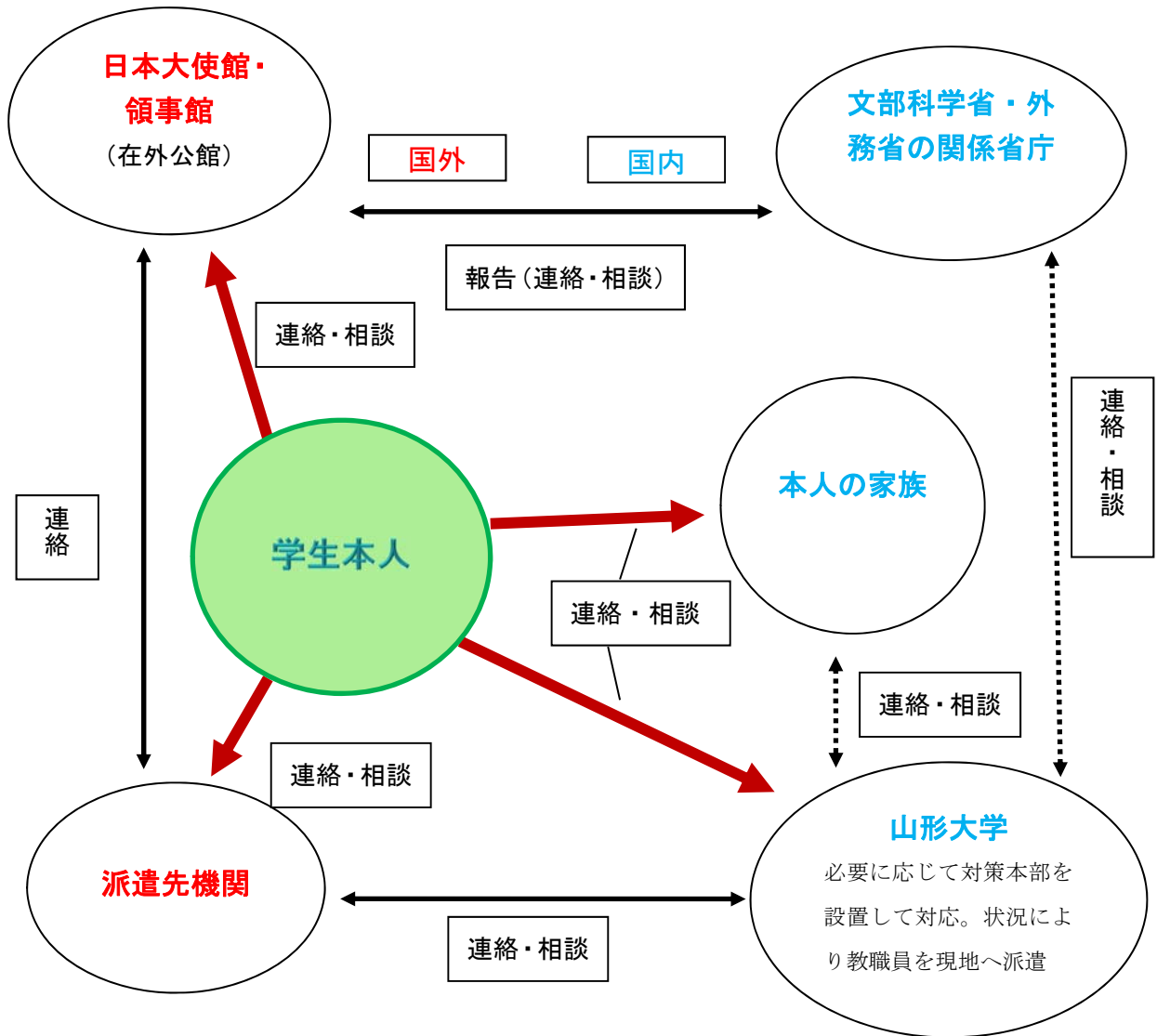
《逮捕・誤認逮捕されたとき》

日本と異なる法令事情を知らないばかりに、知らないうちに加害者になっていたり、犯罪に巻き込まれたりしていることがあります。

万が一警察などに身柄が拘束された場合、**日本大使館や総領事館へ通報を依頼する権利があります。**必要に応じて、弁護士・通訳に関する情報提供、日本の親族等への連絡などを依頼します。相手の言うことがよく理解できないままに、容疑を認めるような発言や、書類にサインをしないようにしてください。

いずれにしても滞在する国の法律を守り、不法な行為には関与しないよう自分の行動を厳しく律することが最も重要です。

～緊急時の連絡先～



※その他、必要に応じて、現地警察や保険会社のヘルプデスク等にも連絡してください。

◆緊急時の連絡先(各自調べて記入しておきましょう。)

	電話番号
派遣先機関	
現地の日本大使館・領事館	
現地の警察	
現地の救急車	
現地の消防署	
山形大学 (学部・研究科)	
家族の連絡先	
保険会社ヘルプデスク	
クレジットカード会社	

～海外渡航に役立つリンク集～

◆外務省 各国・地域情勢

各国・地域における一般事情，政治体制，外交，経済など

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/>

◆外務省 海外安全ホームページ

国・地域別の危険情報，犯罪発生状況，防犯対策

<http://www.anzen.mofa.go.jp/>

◆外務省 海外安全ホームページ 医療・健康関連情報

各国・地域の医療・健康に関する情報

http://www.anzen.mofa.go.jp/kaian_search/

◆外務省 世界の医療事情

国・地域別の衛生情報，医療機関，現地語の医療用語集

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/medi/>

◆外務省 海外安全 虎の巻

海外における事件・事故のケーススタディ集

http://www.anzen.mofa.go.jp/pamph/pamph_01.html

◆外務省 在外公館ホームページ

各国における日本国大使館（総領事館）

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/link/zaigai/>

◆JICA 世界の様子（国別生活情報）

<http://www.jica.go.jp/regions/seikatsu/index.html>

◆厚生労働省検疫所

国・地域別の感染症の流行状況，予防方法

<http://www.forth.go.jp/index.html>

万が一のトラブルに備え，渡航前に

派遣先国の情報をきちんと収集しましょう！！





山形大学教育・学生支援部国際交流課

〒990-8560

山形県山形市小白川町 1-4-12

TEL:023-628-4118 E-mail: rgkokusai@jm.kj.yamagata-u.ac.jp